

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800290		
法人名	特定非営利活動法人 すずらの木		
事業所名	NPOグループホーム すずらの木(1階)		
所在地	岐阜県下呂市萩原町羽根437番地1		
自己評価作成日	令和 3年 9月 21日	評価結果市町村受理日	令和 4年 1月 25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2172800290-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和3年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

勉強会を行い、グループホームの理念である「尊厳を守ること」を重点に置いたケアプランを作成し、それに基づいたケアができるよう職員全員で取り組んでいます。職員は常に考えながら行動し、利用者様の思いに寄り添いながら認知症ケアの専門性を高めて支援していけるよう努めています。まだまだ十分ではありませんが、職員一人ひとりが責任感や意識を高め、理念に近づけるよう日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症ケアの現場において、大切な理念である「尊厳を守ること」をいかに実践する事ができるかについて取り組んでいる。例年、「ICFの考え方」や「パーソン・センタード・ケア」等をテーマに毎月勉強会が開催されているが、昨年度に引き続き、コロナ禍の状況下にあるので、全職員参加の勉強会は控えている。しかし、カンファレンスにおいて「尊厳を守ること」を意識して様々な議論が交わされ、利用者の思いを尊重したケアプランが作成されている。例えば、入院により急激にADLが低下し、食事も摂れなくなっている場合には、食事を口から摂ることの意義や利用者の思いを尊重し、好みの食事や少量の摂取でも栄養価が高い食事を提供する等して、利用者の食欲や意欲を高めている。食事の場面において、利用者が台所に入り食材を切ったり、洗い物を手伝ったりする等、それぞれの状況に応じて自ら配膳する様子から、利用者の主体的な活動を尊重したケアを実践していると感じられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や廊下など目につく場所に理念が掲示されている。勉強会を通じて、意識を深めていきたい。	新型コロナウイルス感染症対策で、全職員参加の勉強会はできていないが、ケアプランを見直す際のカンファレンス時に理念について触れ、利用者を中心にしたケア実践を意識づけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で以前のようにできないが、保育園のイベント時に子供たちにお菓子を差し入れ、お返しに手作りのプレゼントをいただいたり、散歩の際は近所の方々と会話を交わしたりなどの交流は続けている。	コロナ禍の只中、近隣の保育園とも直接の交流を制限せざるを得ないが、園行事の際にお菓子を差し入れたり、手作り作品をもらったりする等の交流を続けている。一方、近隣の散策の際には、地域の方々と挨拶する等、交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍ということもあり、そのような機会がなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行っていない。	コロナ禍の影響を鑑み、また行政からの助言もあり開催を控えてきたが、現在の状況をよく考えた上で開催に向けて検討しているところである。	コロナ禍の影響で運営推進会議が行えない状況下にあるが、各委員への運営状況報告の情報発信や意見の収集について、文書や電話を活用する等工夫して、委員との連携継続に努めるとともに、意見をホーム運営の反映に取り入れるべく検討されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者の方には日頃らご指導、ご協力をいただいている。	市庁舎までの距離も近いので、担当課とは直接会って話をするようにしている。無料のPCR検査などの新型コロナウイルス対策等について問い合わせしている。また、地域包括支援センター職員が気軽に訪問し、相談や報告ができる関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の自由な心、開放感、行動など全ての面で人権を大切に、どんな小さなことでも拘束にならないかと気にかけて支援している。玄関の施錠は夜間のみ行っている。	身体拘束の指針があり、契約時に利用者・家族への説明を行っている。現在、拘束の事例は無いが、安全面への配慮が必要なケースにおいても身体拘束の代替策を講じる等して、見守るケアに努めている。また言葉による拘束がないよう、話し合いを通して職員間での共通理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴やトイレ介助時などに身体に異常はないかと注意深く見るようにしている。言葉による虐待にも注意している。丁寧な関わりを全員で意識したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に学ぶ機会は設けていないが、成年後見制度を利用してみえる方もいるため、理解はしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、改定の際には、丁寧な説明を心掛け、ご理解・ご納得をいただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年は面会ができなかった分、手紙や電話で要望等をお聞きしている。いつでも気軽に意見や要望を出せる雰囲気作りを心掛けている。	担当職員が主となり本人や家族から意見を収集している。面会は原則禁止としつつも、希望者の事情を汲み、向かいの空き家スペースを活用し、感染対策を最大限行った上で希望に応えるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見や提案を聞き、反映に努めているが、もっと意見交流の場を持ちたい。	コロナ禍により職員が一堂に会する機会は無いが、会議再開を模索している。現状は、カンファレンスの機会や日頃の会話を通じて意見や提案を収集し、ホームの運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況把握に努め、事情等考慮しながら就業環境の整備に努めているが、足りない部分はある。今必要なことに関しては早急な対応に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	以前のように外部から講師を依頼するなどして、テーマに沿って勉強会ができるようになることよい。施設内の勉強会も行いたい。外部研修や資格を取ることなどへの支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流がないので、今後増やしていけると、サービスの質の向上につながると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には事前調査に伺い、ご本人にお会いし、ご様子やお気持ちの把握に努め、関係づくりの第一歩としている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談で、ご家族の方のお話を聞き、思いを理解し支援に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の状態を把握し、その時に必要と思われる支援を最優先して考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分でできることは可能な限りご本人にさせていただき、自立を促している。利用者様のお話や言葉から学ぶこともたくさんある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご家族にお手紙で近況報告をし、状況を把握していただけるようにしている。必要に応じて電話連絡をし、相談しながらご本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で感染拡大防止のため、馴染みの場所への外出を控えている。ご家族様へは毎月写真を添えてお手紙をお出ししたり、必要に応じて電話連絡を取り、関係が継続するよう支援している。	入居時に、アセスメントを実施し、生活歴や馴染みの人や場所等を把握し、情報は個人カルテに保管され、いつでも確認することができる。現在はコロナ禍で控えているが、例年は地域の商店等での買い物や馴染みの喫茶店への外出支援を行う等、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、リビングの席の配置を決めている。利用者様の様子に気をつけ、トラブル時は早めに介入するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、関係が途絶えるということはなく、会えばご挨拶し経過をお聞きしている。野菜を届けて下さるご家族様もみえる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時やケアプラン作成時に本人や家族の意向をお聞きしている。日頃からのご本人のお言葉からお気持ちの把握に努めている。困難な方にはご本人の立場になり検討している。	日常的なケアの中で傾聴の姿勢で意向把握に努めている。表情や顔色等の観察にも注意を払い、思いを汲むように努めている。把握した意向は、職員間で共有し、対応している。例えば、髪を切りたい、染めたい等の意向があった場合は、馴染みの美容師に来てもらう等の対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やケアマネジャーからの情報やご本人との日々の会話から生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル、食事摂取量、表情や動作などからご本人の状態の把握に努めている。一人ひとりのお気持ちや習慣に合わせて過ごしていただけるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様からご希望や思いを聞き、ケアプランを作成し、カンファレンスの中で意見やアイデアを出し合い、最終的なプランを作成している。	介護計画は定期的及び必要時に見直している。各利用者の担当職員が利用者・家族の意見を把握し、それを踏まえ、カンファレンスで話し合い、作成している。利用者の意見の反映されたプラン例として、主食のご飯を食べると満足してしまう利用者の方には、副菜から1品ずつ出す等の工夫を計画に織り込み、実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録や夜間・業務申し送りノートで一人ひとりの状況を皆で把握し、ケアプランの実践、見直し活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の送迎、付き添いや個人希望の外出等その時々状況によって柔軟に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため地域資源を十分には活用できていないが、医療関連のものは利用している。(訪問薬局、訪問歯科、鍼灸マッサージ施術助成)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	納得が得られたかかりつけ医に継続的に受診している。必要に応じて適切な医療を受けることができている。歯科、鍼灸マッサージの受診も受けられる。	ホームに隣接している医院と連携を密にしており、定期的に受診をしている。必要に応じ、歯科等の他科受診も行っている。また、介護予防の観点から、マッサージや鍼灸院の受診もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時には、利用者様の変化や気付いたことなどかかりつけ医院の看護師に相談している。丁寧なご指導、アドバイス等をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、介護サマリーを提出し、退院時も退院前に情報提供をいただき、受け入れ態勢を整えている。環境の変化に伴うご本人へのダメージが最小限になるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて早い段階でホーム、ご家族、医師とで面談を行い、書面にて同意を得て確認し合い、その人らしい最期を迎えられるようスタッフ全員で支援している。	利用者の心身状態の低下に応じ、早期に医師、家族、ホームの三者で話し合いを持ち、利用者・家族の意向を確認するとともに看取りの指針についても説明し、家族の気持ちに寄り添い、看取りケアにあたっている。また、看取りに関するマニュアルを整備し、看取り後のカンファレンスにおいて、勉強会を開催し、研鑽を深め、終末期ケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	的確な判断・処置ができるよう定期的に訓練を行い、実践力を身につけたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署のご指導の下避難訓練を行っている。地域との協力体制を強化する必要がある。	年2回の訓練では、通報訓練や火災時の避難訓練を日中帯、夜間帯の想定で行っている。災害時に備え、非常食や飲料水を3日間分を常備し、加えて停電に備えて発電機も準備している。	ハザードマップが見直され、洪水想定対象地域の該当になったとのことで、今後、洪水を想定した2階への垂直避難訓練の実施に向けた取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者様の立場に立ち、言葉かけに気を付けている。更衣やトイレの際にはカーテンや扉を閉めてプライバシー保護に努めている。	利用者尊重の観点から、ゆっくり寄り添うケアに努め、声かけや接する姿勢にもプライドを損ねないような心配りに心がけるとともに、勉強会を通して学びを深めている。例えば、排せつ時、バスタオルをかけてプライバシーの配慮をしたり、トイレ誘導の際、周りに気を配りながら本人にしか聞こえないぐらいの大きさの声で声かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が気持ちを表出できるように声掛けをしたり、選択していただく場面を作り、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	だいたいの1日の流れはあるが、絶対的なものではなく、一人ひとりのペースに合わせて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服を選択していただくなどその人らしい服装を整え、清潔である事に気を配っている。訪問理容を利用している。化粧をされる方の支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体調に気を配りながら食事の準備や片付けなど一緒に取り組んでいる。楽しい時間となるように心掛けている。食事も利用者様と職員は一緒に摂っている。	毎日の食材を見て、利用者の希望を踏まえつつ、前日のメニューと重ならない等の工夫をしながら、介護職員が献立を立てている。利用者の状況に配慮しながら、配膳や食器拭き等を手伝ってもらっている。職員と利用者が一緒に食事の用意や片付けを行い、食卓を共に囲み、談笑しながら食事の時間を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量をチェックし体調管理に活かしている。食事形態も嚥下状態に合わせたものをお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様に合わせて、起床時、毎食後、就寝時に口腔ケアを行っている。毎月歯科医に往診に来ていただき必要に応じて口腔ケアを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々に合った援助をしている。介入時には自尊心を傷つけないよう支援している。	利用者の負担感を考慮しながら、できる限りトイレで排泄できるよう、自立に向けた支援を行っている。排泄チェック表を用い、時間や量を把握し、利用者の動きやペースに合わせて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬やヨーグルトの提供、腹部マッサージ、毎日ラジオ体操や施設内を歩く時間を作り、体を動かす等働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は2日おきに行っている。本人の体調をみながら、拒否があっても無理強いすることはない。時間や日にちをずらして行っている。音楽を聴いたり楽しく会話をし、気持ちよく入浴していただけるようにしている。	音楽をかけて少しでも快適に入浴をしていただく環境を提供している。定時の入浴時間に入っていない場合は、それ以外の時間帯でも入浴することができる。入浴剤、足湯の提供もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度調整、清潔な寝具等環境を整え、気持ちよく眠れるよう支援している。入浴後や体調の悪い時など必要に応じて休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変わった時には、薬の理解に努め、その後の症状の変化に注意している。服薬は確実に飲み終えるまで見届けチェック表に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの習慣、好きな事、得意な事を把握して、朝のコーヒー、音楽、生け花、3時のお茶、散歩など気分転換の支援を行っている。外出は少なくなったが、施設内のイベントを充実させている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在はコロナ感染防止のため、ホーム周辺の散歩等の外出支援しか行っていないが、天候を見て積極的に行っている。	現在もコロナ禍の影響で、外出が制限的にならざるを得ない状況にあるが、利用者の希望に添って、天候の良い日には積極的に近隣の散歩に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理ができる方以外は、金庫でお預かりし、必要に応じてお渡ししている。現在はなかなか買い物にも行けないが、欲しい物をご自分で買っていただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は実際に電話をかけられることは少ないが、好きな時に使えることができるという安心感が見られる。手紙のやり取りも切手を準備したりポストに投函するなどの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心掛け、明るさ温度、匂い、テレビのボリュームなどに気を付けている。玄関やリビングには季節の花を利用者様に活かしている。行事に合わせた飾りつけも行っている。	行事に合わせた飾り付けを行ったり、利用者が生けた花を飾ったりする等して、季節感を大切に空間づくりをしている。とりわけ今年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策に心がけ、換気をしながら過ごしやすい環境にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	屋外や廊下に椅子やソファを置いて自由にくつろいで過ごしていただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れたものを持ち込んでいただき、居心地よく過ごしていただけるようにしている。写真や施設内のイベントで作ったものを飾っている。	利用者の従前の生活スタイルを尊重する立場に立ち、基本的に持ち込みの制限を設けていない。利用者は自由に馴染みのソファや炬燵など馴染みの物を持ちこんで使用されている。また行事などの写真が飾っており、過ごしやすい居室になっている。週に1回、入居者と職員と一緒に掃除をする時間を設けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	便所の張り紙、風呂場ののれん、リビング入口の提灯、居室の表札など場所が分かりやすいように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800290		
法人名	特定非営利活動法人 すずらの木		
事業所名	NPOグループホーム すずらの木(2階)		
所在地	岐阜県下呂市萩原町羽根437番地1		
自己評価作成日	令和 3年 9月 21日	評価結果市町村受理日	令和 4年 1月 25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2172800290-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和3年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

勉強会を行い、グループホームの理念である「尊厳を守ること」を重点に置いたケアプランを作成し、それに基づいたケアができるよう職員全員で取り組んでいます。職員は常に考えながら行動し、利用者様の思いに寄り添いながら認知症ケアの専門性を高めて支援していけるよう努めています。まだまだ十分ではありませんが、職員一人ひとりが責任感や意識を高め、理念に近づけるよう日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に入る所に理念が掲示しており、意識づけ、実践できるよう心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でこれまでのように地域のイベントや子供たちとの交流などはできない状況ではあるが、散歩の時など地域の方にお会いし、お声がけすることはある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は行えていないので、また取り組んでいきたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者の方には、日頃から助言やご指導、ご協力をいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で拘束になっていないか、相談しながらケアに取り組んでいる。玄関の施錠は夜間のみ行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関わりの中で、心身の状態を注意して見ている。小さなことでも報告し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている方がみえるが、知識不足なので今一度学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には内容についての説明を行い、ご家族様に納得いただけるようにしている。改定の際も十分な説明を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年は面会ができなかった分、手紙や電話で要望等をお聞きしている。いつでも気軽に意見や要望を出せる雰囲気作りを心掛けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見や提案を聞き、反映に努めているが、もっと意見交流の場を持ちたい。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況把握に努め、事情等考慮しながら就業環境の整備に努めているが、足りない部分がある。今必要なことに関しては早急な対応に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	以前のように外部から講師を依頼するなどして、テーマに沿って勉強会ができるようになることよい。施設内の勉強会も行いたい。外部研修や資格を取ることなどへの支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流がないので、今後増やしていけると、サービスの質の向上につながると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査の機会を持ち、ご本人と面会し、話をすることで少しでも安心していただけるようにしている。ご本人のお話をよく聞き、お気持ちに寄り添えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネジャーの方からの情報や、ご家族様のご要望や相談事をきちんと聞き、思いを理解しながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族が必要とされている事とホームでできる事を照らし合わせながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事をしたり、活動や作業を行うことで支え合う関係を築いている。少しの時間でもコミュニケーションがとれるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、手紙と写真を送り、利用者様の様子を伝えている。電話で相談や報告をしながら利用者様の現在のご様子を理解していただけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会や外出が難しいため、月に一度のお手紙に写真を添えてお送りし必要に応じて電話で連絡を取り、ご家族との関係が途切れないよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の関わりの中で支え合えるような雰囲気づくりをしている。孤立しないよう声掛けを行っている。トラブルの際はその都度介入や席替えなどをして工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても関係を断ち切ることはなく、お会いした時には声をかけ経過などお聞きしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で話を傾聴しご本人の意向の把握に努めている。困難な方は担当者がアセスメントし、カンファレンスで職員全体で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネジャーやご家族様からの情報提供をいただいている。ご本人との会話からも把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	部屋で静かに過ごしたい方、リビングで港いる方が安心される方など、その方に合わせて見守ったり、活動参加に声をかけるなどしている。表情、排便状態、バイタルなどからその日の心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を事前にお聞きし、アセスメントを行いプランを作成し、カンファレンスにて職員間で意見交換を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護経過記録、業務申し送りノート等を利用し介護計画の実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の送迎、付き添いや、個人希望の外出等できる限りの支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため、地域資源を十分には活用できない状況ではあるが、医療関連のものは利用している。(訪問薬局、訪問歯科、鍼灸マッサージ施術助成)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	納得が得られたかかりつけ医に継続的に診ていただき、状況に応じて適切な医療を受けられている。歯科、鍼灸マッサージの往診も受けられる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師の方に気付いたことなど相談させていただき、丁寧なご指導、アドバイス等をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはサマリーで情報交換を行い、環境が変わることからくるダメージの軽減に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて早い段階でホーム、家族、医師とで面談を行い、書面にて同意を得て、その人らしい最期が迎えられようスタッフ全員で支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	的確な判断・処置ができるよう定期的に訓練を行い、実践力を身につけたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署のご協力の下、避難訓練を行っている。地域との協力体制を強化する必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時などは周りの方々にはできるだけわからないように言葉をかけたり、ジェスチャーで伝えたりしている。言動に注意し敬う気持ちを忘れないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わりの中で思いを引き出したり、選択をし自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで生活できるよう支援しているが、こちらの都合で希望に沿えないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れた衣類はすぐに取り替え、いつも同じ服装にならないように気を付けている。訪問美容師の方にヘアカットや毛染めをしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理から片付けまで一緒になって楽しみながら行っている。誰もが参加できるよう分担して関わっていただけるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた形態で食事の提供を行っている。毎食食事量をチェックし、水分補給もこまめに行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて声掛けや介助を行っている。月に2回歯科の往診があり、必要に応じて治療や口腔ケアを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて排泄チェック表を利用し、トイレの回数や排尿・便の把握をし、トイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況をチェック表を用いて把握し、朝の牛乳やヤクルト、マッサージ等一人ひとりに合った方法で取り組んでいる。ラジオ体操や施設内を行進する運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日おきに入浴日を設定している。各々のボディソープやシャンプーを使用したり、好きな音楽を流しすなど入浴が楽しいものとなるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて休息していただいている。快適な室温、環境で休んでいただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は名前を確認し間違いがないようにし、チェック表を用いて確認を行っている。薬の変更時は申し送りノートに記入し共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな食べ物、趣味などケアプランに取り入れ支援している。水分摂取の際はその方に合わせて好きな物をお出ししている。外出ができない分、イベントに力を入れ楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	出かけることが難しいこともあり日常的に散歩や日光浴などを行っている。外に机と椅子を出してお茶を楽しむこともある。無理強いはせず、ご本人の意向に合わせてお誘いしている。コロナの様子をみながら買い物などに行くこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい方は金庫にお預かりし、必要な時にお渡ししている。必要に応じてお渡しして支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば先方の都合に合わせて電話を使用していただいている。葉書や切手を準備しておりポストへの投函も支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさや大きな音など不快な刺激に気を付けている。空調管理を行い、清潔な空間になるよう努めている。掲示物や花で季節感を採り入れている。利用者様に花を活けていただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子やソファを置き、自由に使用していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでいただいている。家族の写真を飾るなど、安心し落ち着いた空間となるよう工夫している。本人と相談しながらテレビやベッドの配置を決めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング入口には提灯、浴室にはのれん、トイレの案内板や張り紙、居室の名札など場所がわかりやすいようにしている。		